

5月例会「若葉・ネイチャ・フィーリング」報告

令和元年5月12日(日)午前10時~正午、立田山憩の森「お祭り広場」。自然観察指導員熊本県連絡会(自然観察くまもと)と立田山自然探検隊の共催。参加者93名(うち探検隊会員34名、スタッフ13名)。さわやかな青空と新緑に誘われ、次々と参加者がやってきて、あっという間にお祭り広場の駐車場は満杯。近くの駐車場案内でスタッフも汗だくになるほど。自然が大好きなチビっ子達であふれるにぎやかな観察会となりました。

15分遅れて、始まりの会では、主催者を代表して立田山自然探検隊の藤井会長が「ネイチャ・フィーリングとは、五感を使って体全体で自然を感じ取ること。今日は思いっきり楽しんでください」と挨拶。スタッフの紹介で、耳が不自由(聴覚障害)な自然観察指導員の紹介の時に、「おはよう」「ありがとう」「拍手」等のミニ手話教室を行い、早速、参加者の皆さんとの一体感が出来ました。続いて、スタッフから「今日は4班に分かれて、「観察シート」に記載している9つのポイントを回りながら楽しみましょう」と日程説明を受けて観察会がスタート。

最初は全員で、①紙芝居を見て、マムシやムカデ、ケムシ、イノシシ、ハゼノキや毒キノコなどの「立田山の危険な動植物」について学習の後、いよいよ班毎に観察ポイント巡りに出発です。②トチノキのポイントでは、大きな葉っぱ、花、実の赤ちゃんなどを観察、③芽生えでは、ドングリノ殻を割って伸びたナラガシワの苗、カエデの苗、オニグルミの苗を観察、④コゲラでは、センダンの枝先にコゲラの巣穴を探します。写真や巣穴の標本でコゲラの生態を勉強、⑤ノウサギでは、草原の真ん中で落ちたノウサギの糞を探して「どうしてこんな場所でウンチするの?」と考えます。イノシシやタヌキ、シカ、キツネなどの「うんちコレクション(標本)」に、子ども達は「ウンチは臭くない?」「立田山にほんとにいるの?」と興味津々です。⑥クスノキでは、聴覚障害の自然観察指導員が「クスノキの若葉、落葉、枯枝の匂いを嗅いでみましょう、どんな匂いですか?」「クスノキは樟脳(しょうのう/防虫剤)の原料です」などと説明。大人もチビっ子もクスノキを楽しく観察。最後に、手話の「拍手」(両手をキラキラさせるしぐさ)でお礼を言いました。⑦ドングリでは、花が終わり、実り始めたアラカシの赤ちゃんを観察。パネルを使って、立田山では10種類近くのドングリが観察できることも知りました。⑧暗やみ探検のポイントでは、目隠しをして、30メートルのロープを伝いながら、手や足の触覚、耳、鼻などを使った自然観察を体験します。お父さんやお母さんと手をつなぎながら、足元の落葉の感触、目隠しをして触る樹木の感覚、小鳥の声、カエルの声など、ちびっ子達は、いつもと一味違う「自然」を楽しみます。



ポイントを回る順番は各班まちまちでしたが、11時30分には全員が最終ポイントの⑨工作教室に無事ゴール。今日の工作は、松ぼっくりやキリの実で作る「トンボ池の元気カッパ」です。指導員から「カッパ」の話を聞きながら、思い思いに材料を選び「カッパ」の置物を完成させます。「かわいいね」「どこに飾ろうか」と親子の会話も弾みました。

正午、終わりの会と記念撮影。予想以上の参加者で、会の進行にチョッピリ混乱はあったものの、参加者全員ケガも熱中症もなく、楽しい楽しい観察会が無事に終了しました。



